

桂竹丸 講演独演会 「ホタルの母」CD

税込¥3,000

桂竹丸 講演独演会 戦後七十年(二〇一五年) 特別企画 『ホタルの母』

■同時収録 石田三成

世代を超えて語り継ぎたい真実の話を、
桂竹丸が心を込めて語りつくします。

「鹿屋かのやに生まれ、おふくろから特攻について聞かされて、そして落語家になった。大げさ
だけど、これが自分のライフワークではないかという気がしたんですね。落語家が何百
人もいるけども、これを語りしてもらえるのは自分ではないかと。落語家ってひとつの
語り部でもありますから」
— 桂竹丸



『ホタルの母』
CDでついに
登場!

大感涙
発売中!

桂竹丸 人情噺

『ホタルの母』

～草思社刊『ホタル帰る』より～
鈴木 徹 朗

「おぼさん、おれ、あした
ホタルになって帰ってくるよ」

戦後、世代を超えて語り継ぎたい真実の話を、鹿屋出身の落語家、桂竹丸が心を込めて語りつくす、感動の人情噺です。

鹿児島県知事特攻基地。1945年、ここから数千人の若者達が飛び立ち、勝る人となった。名もなき無名な運命を背負わされた少年兵達を、母の眼に見守り、変えたひとりの女がいた。特攻隊員達の母として、ひとりの人間として、かぎりなく崇高に生き、鳥渡トメの人生を、実話を元に書き下ろした書です。

『ホタル帰る』

著者 桂竹丸 監修 石田三成
特攻隊員から母と暮らした鳥渡トメと陣亡たちの姿を、トメの娘、石井あかねが書き下ろした。いくつかのエピソードは、鹿屋市長、映画『ホタル』の中で取り上げられた。

鹿児島県では知事と並ぶ特攻基地、鹿屋に生まれた私は、子供の頃、先生から「特攻隊の人達は皆、天皇陛下万歳と言って飛んでいったのよ」と聞かされ、
「それと事実だけど、ほんどの人達は、おぼさんの名前を叫んで飛んでいったんだよ」
母と子という、このかけがえのない絆に焦点をあて、命の大切さを、尊さを伝えていきたいと思っています。
人間が人間らしく生きられる幸せを、戦後70年が経過、今、かみしめながら、お伝えできたら幸いと思えます。

— 桂竹丸



今だから語りたい。
戦争という大きな歴史の渦にのめこまれた特攻の若き青年達のことを。重く薄れていく悲惨な戦争の事実を、色んな世代に聞いてもらいたい。改めてこの機会に平和を考え直す母を提供することから私ならそう思います。

* 2015年8月8日霧島市民会館での独演会の収録分です。予めご了承ください。